

窓

— 同窓会だより —

No. 95 (平成 25. 2. 28発行)

富山県立魚津高等学校同窓会



昨年同窓会総会に出席したところ、旧制魚津中学校卒業生は、なんと私一人であつたため、最後の校歌斉唱の段になって、たった一人で奮声を張り上げようかと思つていたところ、幸い魚中から魚高に移つた方々が共に壇上に上がつて合唱して頂いたお陰で、「質実剛健風を成す魚中の健男児君見ずや」と高らかに唱い上げることが出来た。考えてみれば小生も米寿に達しているのです。

旧制魚津中学校も遠い思い出の彼方になつた訳ではある。

私共四十一回生

が入学したのは昭和



戦時下最初の入学生 の思い出

澤田 壽朗



昭和十三年四月一日憧れの魚中に入学することが出来たが、戦時下となつて初の中学生であるので、先ず第一に制服の色が変わつた。黒の詰襟の学生服に変わつて国防色と称する淡いカーキ色の折襟の制服となつた。全校生徒が整列すると、二年生から五年生迄は黒色の集団であるので、我々一年生は非常に目立つ存在であつた。

間から、後の横浜国立大学教授で二代目海王丸の設計者も出たので、効果大であつたと思つてゐる。三年生になると戦時色も一層強まって、片貝川の河原の開拓や、天神山での炭焼きにも時々参加した。ただし授業は殆ど今迄通りに進められていた。

四年生の時、魚津―泊往復の四〇キロフルマラソンが行われ、一年生から五年生まで生徒全員が参加した。途中荷馬車の後ろにぶら下がつたりしながら、五時間半かけて帰り着いたことを覚えている。中学の授業で初めてのものに教練があつた。学校の記念日等に全校生徒の大分列行進は、圧巻であつた。五年生が総指揮官となり、全部隊が整齊と行進する様は、後に陸軍に進んだ私にさえも未だに誇りに思う光景であつた。

和十三年四月であり、その前年の七月北京郊外の盧溝橋事件に端を発した支那事変が中支方面にも拡大していた頃であつた。私は、現滑川市立西部小学校の前身、西加積尋常高等小学校の六年生であり、月に何回となく応召兵の見送りがあつて、私の父も第一回の召集で北支に向けて出発したが、必ず魚津中学校に入学するんだぞと念を押して出発したので、私は迷うことなく魚中を受験し合格した。

らといつて、いきなり窮屈なものになつた訳ではなかつた。二年生の三学期のテストが「上海ブルース」であつたりした。

一年生の時、小学校の先輩が庭球部であつたためテニス部に入つたが、一年生は殆ど球拾ひであつたので、二年生になつた時、物理の先生に惹かれて数人の友と共に物理部なるものを起ち上げ、毎日物理の教育準備室にこもつて好きな実験に取り組んでいた。その仲

(元滑川市長・

現AWS㈱取締役相談役

魚中四十一回卒)

米騒動



監事
慶野達二

我が魚津高校は明治三十二年（一八九九年）に富山県第三中学校として誕生しました。現在と違って教育環境の整わなかった当時、第一次世界大戦が終り、近代日本が形成されていく過程の中で、のどが渇くように学問への渴望があつたものと思います。それにしても地域のほとんどの人々はその日暮らしの生活であつただろうと推測します。

「米を積んでもらわれん、米を出すから高くなるがいちや」大正七年七月二十三日、大町海岸には銀行の倉庫が建ち並び、米移出商人の担保として米を保管していた。北海道に米を運ぶために沖合に停泊した汽船・伊吹丸に米を積みこまないようにしてもらおうと「てんこ水」の周りに集まって相談した細民婦女「浜のおかたち」五十人ほどが積み出しを阻止するために立ち上がった。米不足と米価高騰に抗議する民衆の運動が魚津から始まり燎原の火のように瞬く間に全国に広がったこの騒動は、一道三府三十七県の計三百六十九か所にのぼり、参加者は数百万人を数え、政府は軍隊を出動させ、報道も禁止したがマスコミはかえって反発した。時の寺内内閣は総辞職、政党内閣である平民宰相・原内閣が誕生し、魚津発祥の米騒動は日本の民衆運動史上最大は旧十二銀行だけになり、今は水産会社の倉庫として使われ、老朽化が進んでいる。この史実は歴史上の宝とも位置付けられますが、地元では「お上に刃向った恥ずかしい出来事」としてとらえられ、正しく語

り継がれてきませんでした。時が流れ米騒動を直接知る人がいなくなった今日、この倉庫の存在は貴重な生き証人であり、やがて発祥してから百年の節目を迎えます。私は平成二十年に有志とともにNPO「米蔵の会」を設立しました。その目的は米騒動の発祥がその後の日本の民主主義につながる大きなターニングポイントであつたことを学び、広めることと、当時の唯一の生き証人である米蔵の保存と活用を図ってゆきたいと思っています。

（東都ガステック㈱代表取締役社長・魚高十四回卒）

魚女の制服を寄贈

写真の魚津高等女学校（以下魚女と略す）の制服は、



卒業生の渡辺（旧姓河村）君子様がご逝去後、ご家族様より寄贈されたものです。制服は故人が生前、筆筒の中にきれいに畳んで保管されていたそうです。

渡辺様は魚女ご卒業後、師範学校を経て、黒部市の石田小学校に二年勤務。その後上京。都内小学校数校に勤務され、三十五年間の長きに亘り教鞭を執られました。

ご退職後も活躍の場を広げられ、早稲田大学文学部では三十年程にわたり聴講生を続けられました。その間大学院のセミナーにも出席され、聴講生の同人雑誌「早文会論集」では松尾芭蕉、源氏物語などに関する論文を発表され、その中には「氷見の伝説」「大伴家持の越中万葉歌」というのもあります。また、大学の紹介で、千代田区の区民講座で「源氏物語」の講師をされたこともあつたそうです。

九十歳の頃、ご家族から、「今までの人生について書いてみたらどうか」とのアドバイスで、数編の短文を書かれましたが、その中に、「魚津高等女学校」という短編があるので、ご紹介します。

「大正十五年三月、わたしは小学校を卒業した。丁度その年北陸線の「三日市駅」から下立村（隣村）まで黒部鉄道が開通した。義父がその開通に骨を折り、街道に沿って山寄りを線路が通るようにし、駅の敷地も提供したので、駅はうちの裏に出て、田んぼ道を通って走れば五、六分ぐらいのところにあつた。（中略）

家に帰る下り列車は駅の改札口の反対ホームに着いたので、跨線の階段を通らねばならなかった。ところが当時は「男女七歳にして席を同じうせず」の時代であつたので、中学生と女学生とは乗る車両が別々に定められていた。中学生は階段を下りた所に着く車輦で、女学生はホームの先端に着く車輦であつた。それで、後れて駅に駆け込んだ時には、デッキに立つことになった。

新設の魚津高女は町の外れにあつた。駅を出て、線路下のガードをくぐり、下（した）道と呼ばれた裏街道を約三十分歩いた。冬は北陸名物の吹雪に見舞われる。マントにくるまって横向きになって歩いた。まともに向いては息がでないからであつた。それでも学校は休まなかつた。」と青春のページが瑞々しく綴られ、最後は次の言葉で結ばれています。

汽車通学の 魚女時代
楽しきことの 多かりし

執行部

新役員紹介

- ① 現在のお仕事
- ② 魚高生時代の思い出
- ③ 新役員としての抱負



常任幹事
大愛高義
（魚高二十五回卒）

① オーアイ工業株式会社 代表取締役社長 婦人用ストッキング・タイツ・子供用タイツ・紳士用タイツの製造・販売
② 高校二年生の時、文化祭でエレキバンドを編成して仲間と演奏できたこと。
③ 母校発展の為に微力ですが協力したいと思います。



常任幹事
高田弘美
（魚高三十五回卒）

① 魚津市役所に勤務しています。広報紙やホームページなどで市民の皆さんに市政情報や行事などをお知らせしています。
② バスケ部ボール部に所属していましたが、練習がとてつからかつたことが思い出されます。バスケ部のコンパ（卒業生を送る会）では、毎年恒例となつていた男子部員の女装を見るのが楽しかったです。

③ 魚津高校は諸先輩方が輝かしい業績を残し、とても伝統のある学校と思っています。今の生徒たちも、いろいろな場面で活躍している姿を見かけます。魚津高校がこれからも発展していくように、少しでも力になればと思っています。



常任幹事
下澤弥生
（魚高三十七回卒）

① フリーアナウンサー。ラジオミューでのパーソナリティ、司会、ナレーション、話し方教室の講師や小学校での授業など、伝える仕事。
② 一年時の女子3m、男子5mからの飛び込み。上から見た水の色の美しさと、あの時の緊張感は忘れられません。

③ 偉大な先輩方と若手同窓生の間で位置する年齢なので、その橋渡しのような役割が少しでも果たせるように頑張ります。

同窓会のつどい講演

東日本大震災からの復興

感謝とともに、前へ仙台へ



藤本 章氏

去年平成二十三年三月十一日に発生しました、東日本大震災からの復旧・復興に際しまして、ここ富山県からも多大なるご支援を賜りましたことにつき、深く御礼を申し上げます。本日私からは、この場をお借りして、仙台市の復旧・復興の状況についてお話をさせていただきます。

ここ富山県は地震の少ない地域ですが、仙台市が所在する宮城県は、これまでにも宮城県沖地震など、大規模な地震にみまわれてきた地域です。そのため、このたびの震災が発生する以前から、仙台市では大規模地震の発生に備え、二百箇所以上の避難所に、五万人の避難者が三日間避難できるよう対応を進めてまいりました。しかしながら、東日本大震災は我々の想定を超え、市内で最大十万人の方々が避難し、避難所も臨時に開設されたものを含めて、三百箇所を数えました。

また、全壊と判定された建物、だけでも約三万棟にも及び、特に、住宅においては丘陵地で発生した地滑り被害により、防災集団移転を視野に入れた対応を実施しなければならぬ状況です。その他、仙台港に積み重ねられていた貨物コンテナも津波により散乱するなど、地震と津波による被害は多岐に渡り、仙台市の施設だけでなく、住宅そのものや宅地、商工業農林水産関係合わせて、被害総額が一兆円を超えております。

このように、東日本大震災は未曾有の被害をもたらしましたが、震災直後から関係機関との連携を図り、市役所挙げての復興活動を順次進めることとなります。例えば、

津波により発生した、市内処理量の約四年分に相当するがれきの撤去及び処理がまず必要でした。処理までに時間を要することが懸念されましたが、がれきを可燃物などに分別して処理を進めたことで、高いリサイクル率にもつながり、現在では、海岸線に沿って造成する、県道のかさ上げ事業の材料として活用を目指しているところであります。そして、関係する事業者のご協力もあり、予定より半年前倒しの平成二十五年五月までの完了を見通せるまでに至っております。

仙台市の一般会計予算は、震災以前は四千四百億円程度のところ、震災後は三割増しの規模にまで拡大し、政府からも復興交付金というかたちで財政支援をいただいております。復旧・復興は、我々が意図した年月をもって完結するものではございませんが、仙台市としても、平成二十三年度から五年間で集中的に実施すべき事業を体系化した「仙台市震災復興計画」を策定するに至っております。

本計画では第一に、津波被災地における復興支援を掲げています。津波は、太平洋に面し市内東部に広がる農地や住宅をのみこみました。幸いなことに、内陸部を縦断する仙台東部道路が堤防の役割を果たし、被害の拡大に一定の歯止めをかけることができました。この教訓を活かして、仙台東部道路のさらに海側を縦断する県道を六mかさ上げする事業を実施するなど、減災という観点から対策を進めてまいります。

第二に、宅地被害における復興支援です。地滑りなどによる宅地被害は、約五千五百箇所にも及び、それらは仙台市の郊外に造成された住宅地に集中しています。政府の補助事業のみならず、仙台市独自の支援制度も新たに設け、平成二十五年末までの復旧を目指しております。

第三に、被災された方々の生活再建支援です。勤め先が被災されたことなどにより、生活保護を受けざるを得なくなった市民も多く、今後は継続的な就労に結びつけることが大切です。他にも、仮設住宅に入居されている高齢の方々の見守り事業など、支援内容の充実とその体制の構築を進めております。

第四に、経済の復興です。事業者単位での個別の復旧・復興がまずは必要ですが、最終的には、仙台市の商工業や農林水産業といった、経済活動全体が円滑に循環するように、今後の担い手育成を含めた復興を果たさなければなりません。

こうした各種支援のほかに、今回の震災で起きたことを検証し、地域防災計画を見直す作業を並行して進めております。見直しにあたっては、減災という考え方を取り入れ、災害時に自らの手で自らの家族を守る自助、あわせて地域での支え合いによる共助といった取組みを活性化させることも、行政としての公助の再構築を図ってまいります。また、原子力災害の発生を想定し、市域外からの避難者を円滑に受け入れていくなどの対応も、網羅してまいります。

以上述べた施策が、今後本格的に進むこととなりますが、東北全体が復興を果していくうえで、欠かせない観点がございます。第一に、仙台市が東北全体のために、果たすべき役割を念頭に置くこと、第二に、次の時代を担う若い世代が、今後どのように復興に携わっていくかということが、復興を果たしてゆく過程で欠かすことができないものと考えます。

最後になりますが、富山県から今なお心温まるご支援をいただいております。感謝の意に尽きません。仙台市が置かれている状況と頑張っている姿を、少しでもお伝えすることができれば幸いです。今後、さらなるご支援をお願いして、本日の講演を締めさせていただきます。

追記
年も明け、この三月で東日本大震災の発生から九二年を迎えます。現在もなお、復興に向けて施策を進めておるところですが、平成二十五年度は「仙台市震災復興計画」で掲げる五年間の計画期間の折り返しに当たり、復興施策もいよいよ本格化する段階へと入ります。復興への道のりは、なお険しいものがございますが、仙台市役所総力を挙げて、「復興実感の年」となるよう前に進める年としたい所存です。改めまして、度重なるご支援に感謝の意を申し上げます。次年度でございます。

(仙台市副市長 魚高二十五回卒)

同窓会のつどい

八月十二日、ホテルグランミラージュにて百三十余名が出席して同窓会総会が開かれた。

「母校が県下の雄としてますます栄えるよう協力していきたい」という千田則行会長の挨拶の後、筒井慎一校長が進路別講座制の進む学校の近況を報告した。

鶴見瑞夫氏を議長に議事が進められ、事業報告、決算報告、役員案、事業計画、予算案がそれぞれ承認された。

その後、仙台市副市長の藤本章氏（魚高二十五回卒）による「東日本大震災からの復興へ感謝」と題した講演が行われた。

懇親会は、松岡千穂さん（魚高四十四回卒）の司会により、幹事学年代表山口正人氏（魚高四十三回卒）の開会の挨拶で始まった。千田会長の「講演を聞き、日本国民にとつて忘れられない震災について、今後どうすべきか改めて考えたい」という挨拶があり、黒田大阪魚高会長の近況報告があった。

続いて中尾哲雄名誉会長より、「同窓生は絆で結ばれており心はいつも母校にある。連帯を強め、多くの絆で、あたった日本の社会を築いていきたい」という祝辞の後、澤崎義敬魚津市長の乾杯の発声で開宴、和やかな雰囲気の中で親交を深めた。

魚中、魚女、魚高の校歌を各同窓生ごとに高らかに合唱し、来年度幹事学年代表の長崎亨氏（魚高四十四回卒）が「先輩方が培ってこられたものの重みを感じている」と幹事引き継ぎの挨拶を述べた。米寿を迎えた澤田壽朗滑川元市長の万歳三唱の後、魚津高校の連帯の絆を一層強めて会は大盛況のうちに幕を閉じた。

黒田大阪魚高会会長は、昨年十一月にお亡くなりになりました。謹んでおくやみ申し上げます。

近畿地区魚高会懇親会

甲子園の蜃気楼旋風

が話題に

近畿地区の魚津高校卒業生の集いである「魚高会」合同懇親会が十月二十七日、J R 尼崎駅前のホテル「ホッピンアミニング」で三十六人が参加して開かれた。

「合同」は、大阪、兵庫、奈良、滋賀の各支部からの参集との意味。金川泰典さんの司会で開会。黒田富雄大阪魚高会会長が「若い人が少ないが、会がなくなならないよう頑張りたい」と挨拶。筒井慎一校長、千田則行本部会長が母校の近況を、長島潔市教育長が市の近況を紹介した。

室澤基範兵庫会長の乾杯で開宴。各テーブルで歓談が続く中、谷川拓志奈良会長、中村忠良滋賀会長が挨拶。司会の長井良孝さんが、昭和三十三年の甲子園で村椿輝雄投手らが活躍して勝ち進み、蜃気楼旋風を巻き起こした時に、宿の確保に苦労した裏話を披露し、ひとしきり村椿投手の話で盛り上がった。金川明嗣さんがハートモニカで「故郷」を演奏した。

校歌斉唱の後、三井信義大阪副会長の万歳三唱、北村一三男兵庫副会長の閉会の挨拶でお開きとなった。

(富山県人平成二十四年十二月号)掲載

第14回

同窓会ゴルフ大会

平成二十四年九月二十三日(日)

結果

- ◇優勝…岩崎脩一
- ◇準優勝…谷口直樹
- ◇三位…大嶋宗幸
- ◇四位…鶴見瑞夫
- ◇五位…四十物直之



魚津市制60周年記念
書道部パフォーマンス (10/13)



創作ダンス発表会 (11/16)



教養講座 校長先生によるドラム演奏 (12/10)



芸術鑑賞 ソウルマティックスによるゴスペル (10/26)

部活動関係(後期)成績表

◇第65回富山県民体育大会	陸上競技	女子少年A 100m	2位
		女子少年共通 砲丸投	2位
◇第17回北信越高等学校新人陸上競技大会		女子100m	2位
◇第65回富山県民体育大会	水泳競技	少年B 男子50m自由形	1位
		少年B 男子100m自由形	1位
		少年A 女子200m平泳ぎ	2位
◇第28回富山県高等学校新人水泳競技大会		男子50m自由形	1位
		男子100m自由形	1位
		男子50m背泳ぎ	2位
◇平成24年度新川地区高等学校ソフトテニス春季大会		男子個人戦	優勝
◇第36回全国高等学校総合文化祭とやま大会	アナウンス部門	優秀賞2名	
◇第24回富山県高校文化祭放送部門発表会	アナウンス部門	優秀賞1名 優良賞1名	
	朗読部門	優秀賞1名 優良賞1名	
	ビデオメッセージ部門	優良賞	
◇北日本新聞社杯争奪 新川地区高等学校	秋季新人バレーボール大会	優勝	
◇平成24年度 新川地区高等学校	秋季バスケットボール大会	優勝	
◇第34回富山県吹奏楽コンクール 新川地区大会	クラリネット四重奏	金賞 地区代表	
	金管八重奏	金賞 地区代表	
◇第24回富山県高等学校文化祭	散文部門	優秀賞	
	短歌部門	最優秀賞1名 佳作1名	
◇平成24年度「高志の国文学」	情景作品コンクール		
	文芸部門(詩)	知事賞1名 銅賞2名	
	文芸部門(散文)	金賞1名	
	文芸部門(俳句)	銀賞2名	

同窓会連絡係 (平成24年度卒)

- < 1組 > 九里 俊也 ・ 寺松 春菜
- < 2組 > 長谷川悟士 ・ 瀧川 尚未
- < 3組 > 川端 紘平 ・ 中川 栞理
- < 4組 > 水野 清康 ・ 井田 百合
- < 5組 > 上山 和弥 ・ 川上麻由子
- < 6組 > 住吉 賢也 ・ 原 結衣

富山県立魚津高等学校同窓会
〒937-0041 富山県魚津市吉島945番地
TEL (0765) 22-0221
FAX (0765) 22-9970

同窓会ホームページ
<http://www.nice-tv.jp/~gyokou/index.html>
魚津高校ホームページ
<http://www.uozu-h.tym.ed.jp/>

原稿募集のお願い

本校同窓生で「こんな方を知っている」「こんな方が活躍している」という方はいませんか? 自薦・他薦は問いません。原稿をお寄せ下さる方募集しています。